

特集 今こそ、
1 新たな需要を掘り起こせ!

日本に「オーガニックコスメ（自然派化粧品）」という言葉が登場したのは、平成13年ころのことである。20世紀に世界中に普及した石油由来の原料ではなく、有機農法などによる原料を使って化粧品をつくっていくという流れから生まれたものだ。しかし、その10年以上前から、日本の伝統的な天然素材を使用した化粧品を、世

日本人の肌に合った安全・安心な自然派化粧品をつくりたい——。そんな熱い思いを胸にスタートしたクレコス。厳選した国産の天然素材を使って、独自のブランドを次々と創出する。リピーターを増やすと同時に、各地の農業者や福祉施設などと連携して、地域の活性化や雇用創出などにも一役買っている。

原料に不信感を抱いたことがきっかけで起業



無農薬・有機農法のヘチマや米ぬかを原料とする同社のメインブランド「クレコス」

◀「今ではオーガニックコスメも飽和状態にありますが、当社はあえて『奈良発』を前面に押し出したことが、他社との差別化になっていると思います」と語る暮部恵子社長

社名 株式会社クレコス
所在地 奈良県奈良市神殿町 572-1
電話 0742-64-7272
HP www.crecos.co.jp
代表者 暮部恵子 代表取締役社長
従業員 18人（パート含む）



に送り出してきたのがクレコスである。その根底には、「毎日食事をするように、化粧品も毎日使い続ける。だからこそ肌に自然の恵みを真つすぐ届けたい」という強い思いがあった。柱となるブランドは「クレコス」と「QUON（クオン）」の2つ。「クレコス」は、国産の有機農法によるヘチマや米ぬかなどを原料としたもので、リッチな使用感とエイジングケアを重視したシリーズである。「QUON」は、なるべく人間の手を加えない自然農法による茶を使用し、化学成分

「奈良発」の自然派化粧品で 地域の雇用と潜在市場を切り開く

奈良県奈良市

クレコス

今こそ、 新たな需要を 掘り起こせ!

需要や市場の変化を受け、業績が思つのように伸びずに悩んでいる企業も多い。しかし、ただ手をこまねいていては、業績の回復は望めない。そこで、独自の技術や戦略により新たな需要を掘り起こすことで、業績を回復させた企業の奮闘をリポートする。ヒントは、ここにある!

